

市政の最近のできごとを紹介します。



工事が進むミライエ、VRで見学

オープンまで1年の「ミライエ長岡」。建設現場を58人が見学しました。工事中のフロアでタブレット端末をかざすと、整備後のバーチャル映像が出現。完成する施設の空間や使い方をイメージしていました。(7月24日)



広がる新たなワークスタイル

長岡駅周辺に民営テレワーク拠点2カ所とサテライトオフィス1社が開設しました。多様な働き方を広げていくため、ビルの空きフロアを改修してオフィス整備に活用できる補助金などで後押しします。(7月15日)



就活生と市内企業が交流

県外へ進学した学生などに地元での就職を考えてもらおうと行った「ながおかUターン交流会」。参加した学生たちは、和やかな雰囲気の中で企業の特徴や就活へのアドバイスを聞き、市内企業への理解を深めました。(8月10日)



天才プログラマーが県内初講演

「イノベーション都市」の実現に向けたNTT東日本との連携の一環で技術フォーラムを開催し、登大遊さんが講演。デジタル社会をけん引する技術者や地元IT起業家が集まり、最新の技術動向を共有しました。(7月27日)



議場に響く、弦楽の調べ

アフィニス夏の音楽祭のプレイベント「議場コンサート」をアオーレ長岡で行いました。今年の県音楽コンクールで大賞を受賞した後藤母瑚さんなど地元の弦楽器奏者が出演。来場者130人が優雅な音色に聴き入りました。(8月11日)



交流会で起業家の連携を強化

市内で活躍する起業家や首都圏でベンチャー支援に携わる企業など約50人が交流会に参加。学生起業家の事業計画発表やグループでの意見交換を通じ、コミュニティづくりやビジネス連携の強化を図りました。(8月2日)

雪国・長岡でも
太陽光発電は効果的!

脱炭素化 産業振興の チャンスに

固産業イノベーション課 ☎39・2402



「長岡市省エネ・再エネ産業振興プラットフォーム」の設立総会(7月19日)。市内企業や長岡技術科学大学、長岡商工会議所など27の団体が構成。磯田市長が代表を務める

省エネ技術
「パワエレ」って?
専門家に聞きました



長岡パワーエレクトロニクス研究会会長／
長岡技術科学大学
教授
伊東 淳一 さん

身近な技術だからこそ、 多くのチャンスがある

発電量の削減は脱炭素化の重要な要素。パワエレは、電気エネルギーを効率よく変換するために不可欠な技術で、エアコン、冷蔵庫から電気自動車、太陽光発電まであらゆる電気機器に使われています。パワエレの強化により、国内全ての電気機器の使用電力を1%削減すると、発電所1基分に相当すると言われています。研究拠点の技大に加え、関係企業が集まる長岡には、パワエレを大きな産業にしていくチャンスがあります。

市は、温室効果ガスの排出量を抑える脱炭素化の流れを、新たなビジネスチャンスにつなげるため、関係機関と連携した取り組みを進めています。7月には脱炭素化に向けた知識・技術の向上や関係団体の連携強化を目指し「長岡市省エネ・再エネ産業振興プラットフォーム」を設立しました(左上写真)。

設立総会では、雪国でも一定量の発電が見込める太陽光パネルの導入事例などを紹介し、情報交換や企業・団体のマッチングの好循環を生み出します。

市は、温室効果ガスの排出量を抑える脱炭素化の流れを、新たなビジネスチャンスにつなげるため、関係機関と連携した取り組みを進めています。7月には脱炭素化に向けた知識・技術の向上や関係団体の連携強化を目指し「長岡市省エネ・再エネ産業振興プラットフォーム」を設立しました(左上写真)。

設立総会では、雪国でも一定量の発電が見込める太陽光パネルの導入事例などを紹介し、情報交換や企業・団体のマッチングの好循環を生み出します。

長岡技術科学大学やベンチャー企業と「長岡パワーエレクトロニクス研究会」を7月に設立。技大は、電気を効率的に使うパワエレ技術の国内最大の研究拠点です。この強みを活かして、産学官が連携し、人と企業の集積と産業振興の好循環を生み出します。

電気を効率的に使う
技術を新産業に

職員派遣で 水害被災地 を支援



1 マンホール内部の点検(8月9日、関川村) 2 荒れた河川敷(村上市) 3 保健師による健康調査(10日、村上市) 4 家屋の被害認定(12日、村上市)

8月3日からの大雨により被災した村上市や関川村へ、市職員を派遣しました。現地では、給水車による応急給水(右下写真)や下水道施設の点検、被災家庭の健康調査、家屋の被害認定などの支援活動を行っています。

一日でも早く被災地の住民が日常生活を取り戻せるよう、要請に応じて迅速に支援していきます。

固危機管理防災本部
☎39・2262

